

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第 56 号 2012 年 3 月 1 日発行

2012
3
月号



花ことばは「気だて」
「灯りをつけましょぼんぼりに
お花をあげましょ桃の花…」
やさしく、気だてのよい子に
と願ったものです。

—モモ—

★市が募集した 2011 年度環境ポスターの優秀賞に入賞した作品を3回にわたってこの表紙に掲載してきました。本号はその最終回になります。

協力・市役所生活環境保全課美化推進担当

＜嶋津のぞみさんからのメッセージ＞

たばこを吸っている人もさまざまです。携帯灰皿を持っていたり、決められた場所で吸ったり、また、その火が人に当たらないように注意している方もいます。でも、やっぱり自分勝手な人もいます。私たち子どもの目の前で吸い始めることもあれば、ぶつかりそうな所で歩きタバコをしている人もいます。その人は気付いていないのでしょうか。振り下ろされたたばこの火を怖いと思う私たちが後ろに・すぐ横にいることを。たばこにも危険性があることを、気にしてほしいと思います。

嶋津のぞみさん、大和市に「大和市路上喫煙の防止に関する条例」という条例があるのを知っていますか。のぞみさんの学校、深見小の周辺も「路上喫煙禁止区域」になっているはず。また、大和市の条例に「大和市ポイ捨て等の防止に関する条例」というものもあります。こうした「条例」=街のルールがあるからこれで安全で、安心できるというわけではないですね。人と人がつながることが大事だと思います。どうしたら、この街に住んでいてよかったと思える街になるか、いっしょに考えていきましょう。(拠点やまと・小杉記)



絵:嶋津のぞみ(深見小5年)

☆☆☆☆☆☆☆☆

4月号から「あの手この手」を“みんなの手”で

☆☆☆☆☆☆☆☆

広報紙「あの手この手」はたくさんの人たちに支えられて56号の発行となりました。

県民サポートセンターで開催された「広報セミナー」で、各センターの広報紙の中から「あの手この手」の表紙が、講師に褒められたことが印象に残っています。そのときの最新号は42号(2010年11月号)で、怪我により首から下が麻痺している金子寿さんが、口に絵筆をくわえて描いた「からすうり」の絵でした。

画家・田中清隆さんの絵をはじめ、市民や市職員の方々、「やまと国際アートフェスタ」「やまと子ども絵画大賞」「大和市環境ポスターコンクール」などで入賞した子どもたちの絵で表紙を構成することができました。心より感謝申し上げます。スタッフの望月さんの温かいイラストの存在が大きかったことは言うまでもありません。よりよい広報紙を目指して、次年度からは紙面リニューアルでお目見えします。ご期待ください。(石川美恵子)

＜送付の際、同封されているご案内＞

・第 51 回連続共育セミナー「今どきの子育て、親事情」のご案内

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

ママ友が自主上映会
大和ぶんぶんプロジェクト 『ミツバチの羽音と地球の回転』



渡邊由佳さんと慈也くん

震災後に友人と映画『ミツバチの羽音と地球の回転』をを観に行きました。感想を語りながらの帰り道、「一人でも多くの人に観てもらいたいね。私達で自主上映会やろうか!」。ここから「大和ぶんぶんプロジェクト」は始まりました。幼い子供を育てる私達。もちろん今まで上映会を企画したことなんてありません。手探りしながらの準備でしたが、様々な方からアドバイスをもらい、応援していただきました。本当にありがとうございました。そして友が友を呼び、ぶんぶんメンバーは 13 人になり、無事上映会当日を迎えることが出来ました。そして、なんと 604 人もの方に映画を観ていただくことが出来たのです。「想えば叶う」。よく聞かれる言葉ですが、本当にそうなんだと身をもって実感しました。当初は上映会をすることが目的でしたが、

ぶんぶんメンバー、ご協力いただいた方々、映画を観に来てくださった方々とのご縁を今後も大切につなげていきたいと思ひます。私達の活動の趣旨「原発から卒業」するために、まずは私達自身がやりたい!と思ひ気持ちを大切に、あれこれ試しながらやっていきたいと思ひます。

(大和ぶんぶんプロジェクト渡邊由佳さん)

こぼれ話

「オシの定めはオシが決める」

映写のためのプロジェクターを借りに来館した渡邊さんの次男・慈也(やすや)くん(2歳)が披露してくれた仮面ライダー・メテオのセリフ「オレの定めはオレが決める」。



渡邊慈也くん

この映画の原発建設に反対している祝島の皆さんからは、まさに「自分たちの地域のことは自分たちで決める」と、自治する熱い思いと決意が伝わってきました。(M.I)

市民活動
の
現場から

ボランティア活動の応援イベント
「のたろんフェア2012」にぎやか多彩に

2/11(土)横須賀市立市民活動サポートセンターに行ってきました

京急線汐入駅を降りると、目の前に高層ビル。そこの 1F.つまりエレベーターに乗らずに「サポートセンター」がある。外の空気につながっている。これ市民にとって、貴重な価値だと思ひます。「サポートセンター」のマスコット「のたろん」が入り口に立っている。そして大きく横看板に「のたろんフェア2012」。パッチワークで制作されていた。この看板には市民の多彩な活動が集まって、大きなまとまり、つながりがここにありますよというメッセージなんだと解釈できる。

さて、「のたろん」って? これ、「Not Alone」から来ている。つまり「ひとりじゃないよ」なんですね。今年でこの「フェア」は12回目。例年約 6,000 名の来場があるとか。私が行ったとき、会場の一画では「よこすか元気ファン」表彰式のあと、横須賀市長さんとの「車座会議」が展



マスコットの「のたろん」

開されていた。大和市内に「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」があるのと同じように、「横須賀市市民協働推進条例」を持つ市と市民の協働の姿、将来像を熱く語っていた。会場いっぱい50団体以上の出展、外の歩道際ではずらりとテントが並び、さながら「横須賀うまいもの市」。晴れた寒風の下、熱いうどんをすすって帰ってきました。(小杉記)

*「のたろんフェア2012」会場の取材写真は 大和市民活動センターH.P.にアップしてあります。

「何か難しいことがしくて…」

～74 歳からの挑戦～

隔週の水曜日、フリースペースでPCを習っている山下徳光さんに、PC学習のきっかけを聞きました。

平成 13 年に脳梗塞で倒れ、1 ヶ月入院。

退院後の 2 年間、何もしない時期があったが、「何か難しいことをしたい」と思ひ、PCの勉強を始めたのが 74 歳。

83 歳の現在、PCで絵を描いて年賀状を作成。色彩も鮮やかな出来栄えでしたが、年末にお兄様が亡くなられて、発送しなかったと、年明けに聞きました。残念でしたが、まだまだ学習意欲

は旺盛で、ボランティア講師の久保田邦宏さんから教えていただいている姿は微笑ましくもあり、スタッフの私たちも元気に勇気をいただいています。(M.I)



山下徳光さん



とにかく頑張り屋さんです。

ボランティア講師の久保田邦宏さん

「センター」のある日ある時

2月9日(木)晴れ

中・高生夏のボランティア体験「このゆびとまれっ!」の感想文『夏の思い出』の冊子を柏木学園高校に届けました。子育て支援・老人介護サービス・知的障害児支援活動など、コツコツ真面目に取り組んでいるボランティア活動の様子を伝えました。理事長はじめ、先生方は生徒たちが積極的にボランティア活動に取り組んでいることを喜んでいました。(S.S)

3/29(木) 中央林間ツリーガーデンで会いましょう!

「被災地にライトアップを!」からのつながりで、福島県富岡町の子どもたちと交流します

福島原発事故で離ればなれになって避難している富岡町の子どもたちと家族に、湘南の海を満喫してもらおうと、アースデイ湘南 2012 が企画した「福島の子どもたちを湘南へ!」。「海の大運動会」で思いっきり体を動かしてほしい。江ノ島、鎌倉を家族で散策してほしい。子どもたちが参加できるように、アースデイを例年より1ヵ月前倒しの春休みに実施することにしたと、実行委員長の琢磨啓子さんから聞きした。

富岡町での江ノ島展望塔ライトアップの際に、「センター」から折り紙と子どもたちが書いた励ましのメッセージを届

けていただいた。とても喜ばれたと聞き、ぜひ、中央林間のツリーガーデンに招待して、楽しく交流しましょう、というのが今回に企画です。

ツリーガーデン管理運営委員会や中央林間地区社協などのご協力のもと、いっしょに昼食を作って食べ、「冒険あそび場」で思いっきり遊んでほしいと、思っています。メッセージを書いた子どもたちも参加します。いい思い出をたくさん持って帰ってほしいです。

3/29(木)10時に中央林間ツリーガーデンに集まって!



「センター」のある日ある時

2月17日(曇りのち雪)

おじいさんが「麻雀の日を間違えちゃった!」と、入って来ました。笑いながら私は「麻雀は老化防止に良いんですって!」「起きたらパジャマ着替えてね…」楽しく会話がはずみました。後で周りの人が「あんた、あの方大学の名誉教授よ!」。こうなったら、開き直るしかありません。専門のDNA研究での素晴らしい言葉を聞きました。「無限大の順列組合せを最終的に絞るのは“人”なんですよ」。「大きな組織も”人”なんですよ」。凄いい響きに聞こえました。「北大同期の根岸と今度会うよ!」お年は81歳。どうかノーベル化学賞のDr. 根岸ではありませんように…(N. M)

民間企業は“勝ち組”を目指し NPOは“価値組”を目指す

2/23(木) 第(50) 回連続共育セミナー

「NPOで働くということPART2」を開催しました

・NPOは儲けてもいいのです

利益を分配してはいけないのであって、働くという視点にたつて、賃金を支払うこと。NPOでも食べていけることが大事。

・マッサージチェアの法則

若い女性が高価なマッサージチェアを購入する。それではと、キティちゃんのイラスト入りやピンクのチェアを作ったところ、売上げが落ちた。なぜか?自身で使うのではなく、両親などにプレゼントをしている事実。

買う=使うというのは固定観念で、買う=プレゼントという発想をもつことの大切さを知る。つまり、自分目線→相手目線。ニーズを知り、伝えたい人に届くように広報する。



NPOは付加価値が無限で、利用してくれた人の笑顔がボーナスなのです

話し手: 杉下由輝(ゆうき)さん

「さがみの国大和フィルムコミッション」副会長

・東京ディズニーランドから学ぶ

「ゲストにハピネスを」の視点をもつ。

- ・ルールを破ることも必要などときがある。
- ・物を売らない思いやり。(飛行機で帰る客に風船を売らないなど)

・相手の信頼を得ることが第一歩

相談を受けるのが幸せか。相談を受けないのが幸せか。

*参加した人たちからは「モヤモヤしていたものがスッキリした」「まだ、モヤモヤはあります」「面白かった」等の意見が聞かれました。

次回 第(51) 回連続共育セミナーは

「今どきの子育て、親事情」
～孤立しない子育てのために～

日時: 3月23日(金) 14:00~16:00

場所: 大和市民活動センター会議室

話し手: 永井圭子さん(NPO法人チャイルドケア理事長)

清水三和子さん(大和さくら里親会 会長)



「いったい、昨今の子育てはどうなっているのだろうか?」と、思われる事件が相次いでいます。隣近所との関わりを避け、子育てについて相談する人もなく、孤立した子育てをしている結果なのでは?と、心配になります。子どもやその親たちと長年関わってきたお二人をお迎えして、孤立しない子育てについて話し合いたいと思っています。

★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★

★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★

第 149 回 2/7(火) ～ 母親として子どもの未来を考える ～

<大和ぶんぶんプロジェクト>

「ミツバチの羽音と地球の回転」という映画の自主上映会を2月12日(日)に実施しました。この映画は瀬戸内海の祝島で自給自足的な暮らしを営んでいる漁師やおおちゃんたちが、「きれいな海を守りたい」と、28年間も原発建設に反対してきたドキュメンタリーです。みつばちの羽音のように小さなものでも大きなことに影響を与えている。小さい動きでも国や電力会社などの強大な権力、核に対する考え方に影響を与えることになると描かれています。震災後に原発のことを知り、また事故が起こるかもしれないし、廃棄物などさまざまな問題があり「子どもたちに残す未来をこのままにしておけない」と、30代の母親が中心に、「原発を卒業しよう、安心して楽しく暮らせる未来のために今つながろう」をテーマに活動しています。生放送のスタジオ内、リクエスト曲タイムに出演者とジョニーさんの会話です。「映画上映会のお誘いをしていると、子どもが横でチラシを差し上げたりと、知らない間に母親の補佐をやっているんですよ」「子どもも会員の一人なんですね。」



第 150 回 2/21(火) ～ 生の音楽にふれ、夢を描こう ～

<大和市芸術文化振興会>

「親子で楽しむコンサート実行委員会」の関東学院大学生3名が出演しました。去年の夏、大和市民活動センターが市内の「ウィーンホール」で開催した「視覚障害者との交流会」に実行委員の1人がボランティアとして参加し、「大和市芸術文化振興会」の代表に会いました。生の音楽に触れる機会が少ない子どもたちのために、「親子で楽しむコンサート」を企画したい。本物の楽器に触れ、クラシックを聴くことでのいろいろな情景が思い浮かび、感受性や表現力が身につくという代表の言葉に共感して、昨年9月、5名で運営委員会が発足しました。5月13日(日)は大和市生涯学習センターでサクソフォーン・バイオリン・フルート・チェロ・パーカッション・ピアノなど国内外で活躍している演奏家が素敵な演奏で楽しい音の世界に導いてくれます。幼児～幼稚園児むけに(ドレミの歌・童謡メドレー・ジブリメドレー・ディズニーメドレー)幼稚園児～小学生むけには(剣の舞・チャルダッシュ動物の謝肉祭他)を用意しています。



<これからの出演団体>

第 151 回 3/ 6(火)大和市身体障害者福祉協会視覚部

第 152 回 3/20(火)引地川水とみどりの会 子どもエコクラブ

卒業は「達成感に満ちたお祝い」？「あきらめの時間切れ」？私には学校の卒業より、退職の『会社から社会』が大きな線引き！自分では進学した気持でいる。(望月則男)

ある日、それは二重束縛とも言われた。言葉では息子の自立を願うが、側に留めておきたい非言語メッセージを送る母。息子からの卒業。(関根孝子)

活動センターからの卒業を試みましたが、叶わず。まだ健康だと認められ、やるべき仕事があることが留年の理由。なぜだか、くすぐったいような不思議な嬉しい気持ちです。(櫻井貞代)

自動的に卒業できた学生の頃と違い、意識しなければ何かを卒業できないのかも？十数年来の「肩こり」を卒業できるように今年ががんばりたい。(中山みゆき)

熱血編集後記 テーマ:あなたにとって卒業ってなに?



「卒業式というのはこれで終わりということでは断じてない。アメリカでは the commencement と言う。つまり「始まり」なんだよ」と50年前の英語の先生の教えが今でも。(小杉皓男)

時限的卒業を何度も経てきたが、スッキリしたものは少ない。人生をやり直すとしたら、いつまで戻りたいか？と問われたら…。日常の奮起を促す。(浅見正明)

キッチンに幅をとっていた食器洗い機が壊れ、撤去した。ひろびろしてスッキリ。手洗い卒業のつもりだったが、食器洗い機を卒業。(村山真弓)

PC は文字入力しか出来なかった私に、いつの間にか編集集。「貼り付けるだけなら猿でも出来る」と言われ続けて3年余り。未熟のまま「あの手この手」の編集を卒業します。(石川美恵子)



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
今年度最終の3月号(第56号)をお届けします。

今年度のスタート号である「あの手 この手」4月号の「お届け文」を記したのは去年の3/28(月)、あの東日本大震災と東電福島第1原発の事故があった3月11日(金)から、わずかまだ17日目のことでした。連日「この未曾有の」という形容が遣われ、「壊滅」という言葉といっしょに「死者 行方不明〇〇〇〇人」という言葉がどんどん頭のなかに重く積み重なる日々だったと、思い出します。

そんななかで一筋の光明を見る思いがしたのは、それこそ壊滅的な被災に遭った陸前高田市の市立第一中学校の避難所になっている体育館に大きく貼り出された言葉でした。

「命あることを 喜ぶ ガンバレ高田」。

祖父母、両親を大津波で亡くした現地の生徒も加わって考えた言葉だということでした。「そうか。命あることを喜ぶ。か…」と、この言葉を4月号の「お届け文」の冒頭に置きました。それ以降「お届け文」を書こうとすると、いつもこの言葉が頭のなかで繰り返されました。被災地の子どもが投げしてくれた言葉。「命あることを喜ぶ」。

そうなんだ。どんな状況になっても子どもは前を向いて、そしてどこか楽天的な心を失わず、あそび、学び、生きていこうとするんですね。

子どもは「緊急地震速報」も「停電」も「あそび」にしてしまっ、今ある恐怖、不安を乗り越えようとするのを5月号に、復興計画に子どもが「グ・リ・コ」「パ・イ・ナ・ツ・プ・ル」あそびができるような「路地」という環境を加えてほしいことを11月号の「お届け文」に載せました。

手元に今、被災地の子ども33名がデジカメ持って撮った写真と文章で構成された本があります。「3/11 キッズ フォト ジャーナル」(講談社刊)という本ですが、そのなかに胸打たれた作文のひとつ、その一部をそのまま紹介し、今年度ずっと東日本大震災関連のことを記してきた「お届け文」のファイナルにします。

「この震災で学んだ事となくした物、手に入れた物は多すぎて子供の僕の手ではあふれ出るかもしれません。それだけの事がこの震災で起きました。そしてこれからも失って、手に入れていくんだと思います。でも、これだけの事はもうないでしょう。だからこれは人生を早めに勉強したんだと思います。子供には早すぎる人生の。」(南相馬市立原町第三中学校2年・渡部有麻くん)

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/02/29



イラスト・望月則男